

大会企画シンポジウムを振り返って

宮崎県臨床心理士会会長兼災害支援担当理事

矢島 順

平成29年1月27, 28, 29日に宮崎市にて九州臨床心理学会第45回宮崎大会が開催され、最終日に大会企画シンポジウム「災害支援における臨床心理士の役割と連携の在り方ー平成28年熊本・大分地震における九州沖縄ブロックの取り組みからー」を実施いたしましたので要旨を報告します。

熊本県古賀香代子先生、大分県小野貴美子先生、沖縄県甲田宗良先生、佐賀県徳永剛志先生、先生方のお話や、フロアの先生方のご意見を聞きながら感じていたのは支援を受ける立場の糸と支援に赴く立場の糸が一枚の織物のように織りあがっていく様子でした。その感覚は、今回の熊本・大分地震発災以来、九州沖縄ブロック災害支援担当の一人として関わらせていただく中でも感じている感覚でもあります。後述しますように九州沖縄ブロックではさらなる連携の取り組みを計画しており、今後も継続して織り続けられていくことになるでしょう。

さて、縦糸、横糸は様々な糸の集まりでしょうが、基本的で重要な糸は「準備」と「連携」である、ということが本シンポジウムのテーマであったと思われまます。

熊本県古賀先生のお話からは、熊本県では被災の混乱の中にもかかわらず、フェーズフェーズ毎に何をすべきか何はしてはいけないか情報収集と判断を繰り返されていたことがわかりました。その段階での情報収集が次の段階の備えになっていくのでしょう。フロアから熊本県士会会長の江崎先生が「お断りするのも仕事」と発言されましたが、そのようなお仕事がのちの熊本市緊急SC派遣事業につながったのだと思います。

大分県小野先生のご報告では、連携・つながりは備えである、と改めて教えていただきました。まとめにもありましたように、別府市総合教育センターや保健センター等で先生がこれまで培われてきた人とのつながりがあってこそその大分県の支援活動であったことが良く理解できました。保健師さんとのつながりが薄かった宮崎県では今回熊本県境地域の被災状況や支援ニーズの把握に手間取ってしまったことは反省材料の一つです。

沖縄県甲田先生のご報告は支援の企画、運営のお手本と言えるものです。沖縄県士会は、災害時におけるこころのケア活動マニュアル沖縄県版の作成に深く関わってこられ、DPATの活動に備えたサイコロジカルファーストエイド(PFA)研修も繰り返し実施されています。九州沖縄ブロックの中でも災害支援先進県でもあるのですが、内容の細やかさには感心させられてしまいました。今後マニュアルの一つとして参考にさせていただきます。

甲田先生のご報告のポイントの二つ目は、支援のマナーDo no harm (PFAより)。シンポでも紹介されましたが、熊本県士会会長の江崎先生は出発式で緊急支援SCの皆さんに常に「プラーっとしてください」とおっしゃっていました。これは「気負わずにいてください」というメッセージと同時に「余計な、害を与えるようなことはしないでください」というメッセージでもあるということ甲田先生のお話を伺いながら支援に入った一人として思い

出していました。

3つ目は、「行く」人も「行かない（沖縄に居る）」人もチームの一員、「みんなで一人のSC」という言葉。小野先生のまとめにもありますが、フロアから大分県士会災害支援担当の矢島潤平先生は「お金集めなどロジスティクスに徹し」られたそうです。ようやくロジスティクスという言葉が耳になじむようになってきました。この言葉の内には「支援に赴かないのも支援」という意味と、もう一つ資源探しという意味があるように思いました。「熊本県出身の会員に地理等の教をを乞う」という発想は正直思いつきませんでした。

佐賀県徳永先生。早い段階から九州沖縄ブロック災害支援担当者会議の必要性に気づかれお声を上げていただいたことに感謝申し上げます。九州臨床心理学会という土壌があったとはいえ、発災前に第1回会議が開催できていたおかげで早急なメーリングリストの立ち上げにつながり、また、会議に集まったことがまさに顔の見える関係作りとなったわけですから。

九州沖縄ブロックでは災害支援分野での連携をさらに深めるべく動き出そうとしています。昨年12月に行われた全国会長会・災害支援担当者会議において、1、熊本県士会の体験に基づいた支援を受ける立場の研修、2、各県災害支援担当者を対象にしたPFA研修、を企画することが話し合われました。このことは本シンポジウム後に行われた九州沖縄ブロック県士会会長会でも改めて確認されました。徳永先生には今後とも災害支援担当者会議のおまとめ役をお願い致します。

以上、簡単ですがまとめとさせていただきます。

古賀先生、小野先生、甲田先生、徳永先生、本当にありがとうございました。また、フロアから貴重なご意見をいただきました先生方にも感謝申し上げます。

熊本・大分地震への支援はまだまだ継続していきます。今後とも温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、このような発表の機会をご提案いただきました日本臨床心理士会常任理事 野島一彦先生にシンポジスト並びに関係者一同深謝いたします。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。